

CUBAPON発足20周年の年に 2014友好訪問団実施

報告: CUBAPON事務局長 松矢文雄

今回の友好訪問はクバポン結成20周年を記念し、現在クバポンが進めている青年の島での稲作支援活動の視察、とりわけ第2段階の現地長期滞在指導中の菊田さんを激励することを目的に5月10日から16日までキューバを訪問してきました。(団長: 君島一宇、総勢10人)

11日、12時前**青年の島着**。ヘロナの空港のVIPルームで菊田さん、通訳ガイドを務めてくれるよし子さん、日系人協会会長のノボルさん、エステバンさん、アルベルトさん、ICAPのマルレインさん、政府役人のテレロさんが迎えてくれました。中に入れきれず外ではナンシーさん、ノボル夫人、エステバン夫人、アルベルト夫人らが横断幕を掲げて歓迎してくれました。

この日は、「母の日」で特にキューバでは大切に日となっていて家族が集まって食事を取ったりするので公的な活動は控え、私たちも青年の島の関係者と一緒に昼食を取ることにになり、空港からほど近い湖の畔のレストラン・エラブラへ。その後、宿泊ホテルに立ち寄り、デマハグア地区のマルシアル・ミヤザワさん宅へ。支援したポンプの故障部分を確認し、新しい部品を取り寄せることにしました。そこから、バスで30分ほど北西にある景勝海岸に行き、椰子の林立する素敵なカリブの海岸に面したホテル・コロニーでゆったりとした時間を過ごしました。その間、クバポン事務局では旧ミンセックスのテレロさんとの懇談やノボルさんと支援金の使い道、来日招待の件などを話し合いました。

ホテルに午後6時半過ぎに戻り、一休みしてから、団員のみ夕食会となりました。

12日、朝9時メヤ地区稲作地の視察に出発。**稲作従業者**が16名参集して、懇談会を行いました。ヘスス氏からの説明の後、地区の春の植え付け状況や昨年の収穫量等について報告がありました。田圃の視察も行いました。

次にメヤ地区の小学校を視察しました。可愛い女生徒からダンスの歓迎を受け、授業を見させてもらいました。

ヘロナに戻り、昼食。その後、ホセ・マルティ軟禁跡博物館の見学。休館日にもかかわらず責任者から丁寧な説明を受けました。そして、ヘロナの中心街に再度戻り、散歩。

午後5時から、ICAP事務所にてプロジェクト関係者との懇談会が開かれました。君島団長、ミヤザワ・ノボル日系人協会会長、マルレインICAP青年の島代表の挨拶の後、菊田さん、ヘススさんの報告がありました。「草の根無償資金」による機械の導入が早期に実行されることを参加者一同期待していました。最後に、菊田さんから参加者へTシャツ、村田団員から鎌、ゴム靴、他の団員からもタオルや石鹸などの物資を贈呈。

午後6時から事務所の中庭で**文化交流会**が行われました。まず、青年の島側から紹介をかねて出身地別に4世、5世の若者から2世へ登りの旗を手渡すことから始まりました。島の出し物をプロデュースしたのはナンシー・湊さん。その次は、浴衣姿の若者7~8人による日本民謡や踊りを披露してくれました。

クバポンから用意した出し物が次に始まりました。まず、「風呂敷でものを包んでみよう」で、団員2名が代表の若者3名に手ほどきして瓶やペットボトルの包み方を教えました。回りの大人たちも覗き込んで見えていました。次に、「毛筆で日本文字を書いてみよう」で、これも2名の団員が手本を見せながら書きました。はじめは書くことに遠慮がちでしたが、いろいろ書いていくと希望者が次から次へと出てきました。時間の関係で終了しましたが、脇で会の最後まで書いている人たちがいました。3番目に「浴衣を着てみよう」で、ここも2名の団員が男子女子1名ずつモデルになってもらって、着付けを行いました。モデルになってくれた女の子がこの浴衣がほしいというので、差し上げました。日本の支援者から寄贈された12着の浴衣は、ナンシーさんに預けて皆さんで分けてくれるように話しました。最後に「昔の遊びをしてみよう」で、団員全員でコマ回しや竹とんぼ、羽子板の遊び

CUBAPON 20周年記念の集いご案内
2014年10月4日(土) 午後1時~4時30分。

於: 埼玉県坂戸市文化施設「オルモ」
(東武東上線・北坂戸駅前)

内容: I部: 稲作支援プロジェクト・現地報告、他
報告者: 菊田仁氏
※現地、青年の島から日系人協会宮沢昇
会長招聘

来賓: 駐日キューバ大使館等
II部: キューバの集い(キューバ音楽)

出演: ドス・ソネス・デ・コラソネス
参加方法: 事前にCUBAPONまで参加登録をお願いします。参加費は1500円。



稲作従業者の懇談会の模様



交流会で活躍するユカタ

方を教えました。小さい子から若者までみんな大喜びで一緒に楽しく遊びました。すでに予定の時間を30分以上も超えていました。

最後に島側から沖縄の踊りとフラメンコを披露してくれました。そしてナンシーから踊りましょうということで団員も混ぜてみんなでサルサ風ダンスで終了となりました。

20時から夕食会でしたが、15分ほど遅れて近くのホテル・クバーナで17名のフカロ地区の日系人や関係者を招待しての総勢27名での会食となりました。豪華な食事とプロのミュージシャンの生演奏によって、会場は大いに盛り上がりました。

13日、荷物を用意して朝10時にバスに乗り。ヘロナの街の診療所(ポリクリニコ)を視察。所長のオルランド氏ほか3名から診療所の説明を受けました。説明の後、支援物資を贈呈して記念撮影。それから院内を視察しました。

11時半、モンディーロ監獄跡博物館を見学。第二次世界大戦中に日系人が強制収容され、またフィデル・カストロたちモンカダ襲撃の後捕らえられた革命戦士たちが収監された所でもあります。広大な敷地に忽然と立つ巨大で異様な元監獄群でした。

ヘロナから東5、6kmの所にあるレストラン「メソン」にて昼食。午後3時にフカロ地区の日系人原田さん宅を訪問。湊さんや徳永さんも集まってきて、農作物の作付けや生産状況などを説明してもらいました。今年はマンゴーの成熟が遅れていましたが、少しだけ御馳走になり、皆そのおいしさに満足していました

17時過ぎに又エバ・ヘスス空港へ。ハバナの方で雷雨が発生し、飛行機は予定時刻を2時間遅れて、21時過ぎに離陸、ハバナに22時到着。

CUBAPON13年度収支(13年度6月1日~14年度5月31日)	
支出	
会報印刷代	33,705 43、44号、45号
その他印刷代	65,625 チラシ、封筒、資料
送料	114,041 会報、封筒など
会費等	3,080
諸費・雑費	105,605 翻訳、打合、交際費
資料費	0
12借入金返済	44,011 12年度分IFCCへ
計	366,067
収入	
会費	150,000 50口
カンパ	6,000
稲作支援連絡手数料	35,000 稲作プロジェクト/団体
事業費	40,500 7.27イベント収入
13借入	28,567 IFCCより
13協力金	100,000 前田様寄付金より補填
計	366,067
※前田様寄付金残金 200,000円(2014年5月31日)	

14日、朝8時サンタクララに向けて出発。12時サンタクララの革命広場着。ケバラ霊廟、戦士として活躍したチェとポリビアで戦死した38人の霊廟をお参り。機関銃を携えたチェ像が建つところで記念撮影。郊外のリゾートホテルにて昼食。午後は、列車襲撃跡博物館、共産党本部前の子どもを抱くチェ像、カビーロの丘を見学。

後一日を残すばかりになっていましたが、相変わらずビールやコーヒー、蜂蜜などが店に並んでいませんでした。市内の歩行者天国で運良くコーヒーを売っている店にたどり着くことができました。棚のコーヒーがなくなるほど団員が買い占め、店内でコーヒーを飲みながら一休み。

17時、ホテル・ロス・カネイエス着。椰子屋根のコテージでゆっくりし、19時に夕食。

キューバ米自給支援プロジェクト・カンパ収支(個人) ~2011年度開始より累積~	
収入	204,000 11年度協賛金 25人
	192,000 12年度協賛金 33人
	193,000 13年度協賛金 29人
	141,000 14年度協賛金 25人(5月31日現在)
	200,000 団体協賛基金より繰入(13年度末累積)
計	930,000
支出	190,718 報告書1号~4号印刷 „他
	44,660 報告書送料累積
	172,358 連絡・会議費
	207,540 諸費雑費(翻訳、通信費等)
	187,500 事業推進関連費等
計	802,778
残	127,224 2014. 5・31現在

※技術指導現地派遣(菊田氏)関係費は、団体基金より支出

15日、朝7時半ハバナへ(当初予定していたハバナ市内見学の日程が変更したので、その時間を確保するために早めの出発)。途中トイレ休憩のみで、CTC本部へ、11時着。フレディ国際局長、ファビアンアジア・オセアニア担当の出迎えを受け、懇談。本年開催されたCTC大会で決定された重要項目について説明を受けました。また短い時間でしたが現状についても聞くことができました。持参物資を団員から贈呈し記念撮影。

12時半、コヒマルのレストランにて昼食。2時過ぎ、モロ要塞へ。要塞からは旧ハバナ市街が一望できました。3時前、革命博物館に着いた時は雷鳴と共にすごい降雨。5時前に土産物店に立ち寄り民芸品などの買い物。5時半、旧市街地へ。アルマス広場からカテドラルまでオスワルド氏のガイドを受けながら散策しました。

18時45分に是永亭着。7時からCTCのフレディ局長、ペドロ夫妻、ICAPのリゴベルトアジア極東担当夫妻らと交歓会。君島団長ほか訪問団からキューバの感想が述べられました。最後に招待した皆さんに土産物を贈呈して、お開きとなりました。

21時半、ホテル着。ここで訪問団としての一緒にの行動は終了となり、別れの挨拶を交わして、それぞれの部屋へ。

16日、メキシコグループ、帰国グループ、残留者に別れて、ホテルチェックアウト。2014・6・15記
※視察内容の詳細は、7月発行予定の報告書「経済封鎖下を生きるカリブの社会主義XVI」を参照下さい。



ロス元 CTC書記長など、CTC、ICAPの方々と：是永邸で

- 「米自給支援プロジェクト報告 vol4」(14年3月発行) 発売中
青年の島での「米自給支援プロジェクト」の報告を協賛カンパいただいた方に随時行っています。ご希望の方は「協賛カンパーロ=3,000円」をお願いします。只今、2014年度協賛カンパ呼び掛け中。
- 近日発行：「カリブの社会主義PartXVI」(2014年版) 2014年5月、実施された訪問団の現地レポート。稲作現場や医療現場などキューバの姿を見聞した記録。7月発行予定(A4版、800円 送料込)

好評頒布中
『キューバ探訪——17年』 細谷久美子：編著
311頁、四六版 定価2100円
CUBAPON 会員：細谷久美子さんの17年間のキューバ見聞録がモンカダ兵営襲撃60年の年=2013年7月26日に上梓されました。革命とともに生きるキューバ人の決意、希望、苦悩の息使いを映し出しています。それはまた、キューバ連帯を掲げたCUBAPONの1993年以来的活動の足跡ともなっています。発行数300限定版です。是非、頒布に御協力下さい。

キューバのこと思いつくままに=====

群馬県 前田恵介

CUBAPON は今年で 20 周年を迎えます。特別期（窮乏期）の 1994 年に小さな産声をあげ、医療器具支援や災害支援、そして米国の経済封鎖や 5 人の英雄拘束に対する反対活動を続けてきました。今、主食であるコメ作り支援を行っています。
この CUBAPON の長年の仲間である前田恵介さんから、30 万円という多額の寄付金をいただきました。前田さんの、キューバ連帯への思いを掲載させていただきました。（CUBAPON 事務局）

「なんでだろう」関わりを持った多くの人々が、虜になり、何かしたいと考える。こんな国は、そう多いものではありません。

旅好きで、フランスや米国、印度など同じ国を何度も訪ねる人はいます。リピーターと呼ばれるこれらの人は、ほとんどが観光客としてその良さを語ります。毎年のように正月をハワイで過ごす人の中に、ハワイに頑張ってもらいたい、このままでいて欲しいから援助したいと考える人はいるのでしょうか。

面白いことに、この国とかかわりを持ち始めると、態度が変わるのです。この国の制度を守りたい、発展させたいと願うようになります。そして、関わり方の古さを語りだします。関わり始めて何年になる、何回訪れた、何々の支援をしたとか、おかしな国です。こんな制度を持つ国が他にないからでしょう。

この国の社会制度が、市民の生活を支え、旅行者にも安らぎを与えているのは、間違いありません。

革命が始まってから、ずっといじめられています。建国直後から泡沫国家の烙印をおされ、続くはずのない国でした。

キューバ危機やソ連の崩壊、世の中がおかしくなる度に、今度こそ無くなる、誰かの物になると信じられていました。でも人々は革命を続けています。

貧しさの中に、陽気でありながら、自分たちは勤勉と言い張る呑気な人たちが暮らしています。こんな楽しい国を訪れない事は、人生の楽しみのいくつかを失うことにほかなりません。めっちゃヤバです。

かつて植民地支配の下、物言わぬ労働者、労働しても報われない生活を強いられていました。解放の後、教育と医療に多くを注ぎ、識字率を大幅に引き上げました。噂話に翻弄されないよう、自分で確認する術を身に着けました。

名誉がこの国を支えているといっても良いでしょう。貨幣至上主義の国では、その尺度が金額しかありません。価値ではなく今つけられている金額だけが動機づけになっています。

過去も未来もありません、今この時だけが良ければ

満足なのです。遣り甲斐や達成感さえ金額で量ろうとしています。汗水垂らして働くことの価値を、金融商品を吹っ掛けて儲けることの、何百分の 1 にしてしまうのです。こんな世界がいつまでも続くと考える方が不自然です。博打社会は必ず崩壊します。

今年、クバポンが 20 年を迎えます。ソ連崩壊後の特別期に何とかしなければと立ちあがって 20 年、長かったのか短かったのか、それぞれの思いがあるでしょう。遠くにあって、遠い国だったものが、ひょんな事からかかわりを持つことになりました。

私が彼の地を最初に訪れたのは、1997 年のことでした。

8 年ぶりで世界祭典が開催されるというので、思い切って



農場視察で地元群馬県のダルマを送る前田さん(2012・11・21)

夏休みを取ることにしました。今もさほど変わりませんが、年間の有給休暇取得日数は一桁の前半で、ほとんど流していました。年間百数十時間ただ働きをしています。入職した頃、土曜日は半ドンで、3 日休むには理由を聞かれました。

そんなことから、2 週間を超える休暇に漠然とした不安がありました。労働運動につま先を突っ込んでいたのに、休みも取らないなんておかしい。権利は行使しなければ守れないみたいな話もあって、出かけることにしました。

バブルの時にその恩恵を受けなかったのが、バブル後も生活が逼迫することはなく、そこそこの生活は出来ていました。参加費は高額ですが、負担出来ない程ではありませんでした。

活動家や役員の皆さんは、組織の期待を背負われていたのですが、軽い気持ちで参加しました。

バブルの恩恵には浴していませんでしたが、貨幣を中心とする経済にどっぷり浸かっていたので、発想の根底に金額が横たわっていました。1 ドル 117 円ぐらいでした。米ドルがそのまま使えた時代で、物価は安いかな程度の認識でした。1 米ドルが 1 兌換ペソ。基本的には今も変わりません。

祭典中、アジアの集いに参加しました。交流施設の中は、人民ペソなので、米ドルを人民ペソに交換しました。人民ペソは、ここ以外は使用できないので、使い切りとなります。1 米ドルが 22 人民ペソ。米ドルを入手できる人と、出来ない人の格差が言われ始めていました。

このころはまだ、栄養状態が芳しくなく、小柄な子供たちが多くいましたが、広場で野球をし、海で泳ぐ姿は、よく見かけました。

プログラムの途中で、地方都市を訪れ、民泊をしました。深夜3時に到着したにも関わらず、大勢が待っていてくれました。夫婦の寝室を提供されるなど、精いっぱいのもてなしを受けました。みんなのカンパで、地方プログラムが実施されたことは後で知りました。果物や名物料理がどこでも登場しましたが、地元の人たちが食べるものも食べずに、提供してくれたものでした。

子どもたちの瞳が輝いていたのと、なんとなく時間がゆっくり流れる感覚に、お金で人生を量ることの無意味さを感じました。そろそろキューバにはまり始めたのでしょうか。世の中には、楽しい事が沢山あります。ちょっと勇気を出すだけで、いいんです。

次に訪れたのは、2000年の第2回世界連帯会議の時でした。この会議については、様々な立場から報告がされています。

メキシコシティ経由でハバナに入りましたが、資本主義で薄暗いメキシコとキューバの明るさが印象に残っています。キューバに肩入れた思考回路になっていました。

先進国と呼ばれる国々と、第三世界の軋轢が大きなテーマでした。武力と資金力で強奪してゆくことの違法性が多く語られました。活字にすると重いけれど、キューバですから、明るく話が続いていきます。米国利益代表部の前で行われた集会は、ほとんどお祭り状態でした。米国民を恨んでいるのではなく、社会制度の問題として捉えられていました。

閉会集会のカールマルクス劇場での最後の演説は、フィデル。入場時のチェックが厳しかった理由がわかります。拳銃を忍ばせていたら、確実にあたる距離に、幾多の暗殺の危機を乗り越えた人が立っていました。

ブエナビスタソシアルクラブの影響もあり、観光客も増えていました。しかし、物不足の深刻さは改善されていません。米国の言う「ならず者国家」に対する経済制裁は激しさを増していました。高速道路はありますが、燃料がありません。それでも、みんな明るく生活しています。観光客が一人で町をぶらつくことも出来るんです。面白い国です。

インターネットが普及して、いろいろな情報が簡単に入手出来るようになりました。「いろいろな」が曲者で、正しい情報は不足しています。私も何が正しかは、分かりませんが、体験した事実だけは間違いありません。

信頼性のないものも多く、噂の類が面白可笑しく、拡散されています。インターネット上では、英語が多くを占めています。そしてその発信の多くも英語圏からです。地球上の言語圏から考えると、多くのスペイン語圏の情報が無視されています。この歪な形は、ま

すます拡大していくでしょう。検索順位も、大企業に握られています。一見タダに見える情報の多くにスポンサーが付いています。世界制覇のために、活動は行われています。

キューバもベネスエラも識字率の向上に努めています。自分たちで、直接情報を得る事が出来るようになりました。でも、ご都合主義の情報は、もっと巧みに押し寄せてきます。米国の悪口を言う気はありませんが、米国発のテーマパークと、エンターテイメントが世界を席卷しています。

疑似体験で満足して、短時間で多くの出費をしてもらえるよう、あの手この手で攻めて来ます。現地へ赴き体験するより、お気軽にちょっとしたスリルを味わわせ、飽きさせないように、喧噪のなかで満足感を与えています。



後列左から2人目が前田さん。2012年11月訪問団。Reiko宅で、CTC国際局長、ICAP副総裁らと。

地球の大きさを感じ、風の音に耳を傾けるのも良いものです。多少の不便と、ハプニングも楽しもうじゃありませんか。まだ窮乏しているこの国に小さな贈り物ができれば良いなと思っています。これからも、この国が存続できますように、そしてみんなが幸せでありますように。キューバへの思いです。

2014年6月1日記

共同出資旅行社アイエフシーは、皆様の手配旅行社です。ご用命をお待ちしております。
●人と人の出会いを通じた友好と連帯をプログラムします。
●文化、政治、福祉の視察、研修、調査をプログラムします。
●キューバへのプライベートツアー、交流、視察をプログラムします。
TEL:03-3268-6014 FAX:03-3268-6079